



日本医療福祉生活協同組合連合会

東日本大震災支援ニュース No.33

(2011年4月6日 17時現在)

被災地の医療福祉生協の状況

○みやぎ県南医療生協

しばた協同クリニックは停電で電子カルテ・画像処理などの機器は全く使用できず、お薬外来形式で診療を行い、最初の一週間で500名の患者さんを診療。晴天の日は、日当りの良い別棟のプレハブ通路に臨時診察室を設けて診療を行う。その後は通常通りに診療を継続。

デイサービスセンターあおぞらは、震災当日、帰宅できない利用者さん3名の臨時宿泊を受け入れ、自宅で入浴のできない利用者さんの入浴サービスを実施して45名が入浴。大きな被害を受けた山元町の要請を受け、入浴困難な要介護の高齢者の入浴を4月4日(6名)から通常業務終了後に受け入れ。震災後初めての入浴となり、大変感謝された。4日から尼崎医療生協の介護職員2名、看護師1名の支援と職員、ボランティアで対応、下着などの衣類も提供した。

震災直後から一人暮らし等困難な状況にある組合員さんを支部役員や地域活動担



当の職員が訪問、その後理事・職員を含めて電話などで安否確認を行った。更に支援を得て山元町、亘理町の安否確認を実施中(写真は尼崎医療生協の第4次医療支援隊が撮影したみやぎ県南医療生協の沿岸部、亘理町荒浜地区)。

(4月5日付、大震災ニュースより)

○郡山医療生協



愛媛医療生協と浜北医療生協から果物、ジュース、お菓子が大量に届きました。

4月4日から、ほぼ通常に近い診療体制を確立した職員にとって、愛媛医療生協と浜北医療生協から届けられた物資はホッとする贈り物でした。

浜通り医療生協から「紙おむつが不足している」との連絡があり、紙おむつと電動自転車を直ちに届けました(写真)。

避難所での炊き出しを継続的に行っています。4月5日は組合員さん4名と4月1日付で採用された事務職員5名が担当しました。当初100人分の予定が140人分に変更になりましたが、息のあった連携プレーで対応できました。

保育士と看護師が避難所を訪問。下痢と嘔吐が多いことが分かり、衣類やディスポグローブなどをワゴン車2台に積んで物資支援。

各地域の機関紙配布者が、配布を通して組合員さんの安否確認を行っています。理事長のお見舞い文書と困りごとの相談先を記入した用紙を持っていくと「医療生協はそこまでやってくれるのか！ 私も配布くらいしなければ」と機関紙配布を快く引き受けてくれました。(対策本部ニュースNo.19 No.20 より抜粋)

○福島中央市民医療生協

近隣避難所への医療支援・訪問活動を継続しています。寒さと疲労のため風邪が治りにくいようです。また、避難所にいる高齢者の中には、入浴できない人が一定数います。避難所で職員が行っているエコミークラス症候群予防体操を楽しみにしている方もいます。

(4月3～6日付、避難所訪問日報より)

支援状況

○会津医療生協

支部や班、個人から寄せられた義援金100,000円、職員からの義援金63,820円、その他きたかた診療所の募金箱から22,887円が寄せられ、医療福祉生協連へ第一弾として送金することに。また、猪苗代支部では、組合員を中心に30人で「支援する会・虹」を立ち上げ、町のボランティアに登録。3月25日から避難所へお茶出しやお湯を提供。(4月4日付大震災ニュースNo.8 より抜粋)

○富山医療生協



4月3日、郡山医療生協に支援物資を届けました。今回は紙おむつ・尿取りパッド・おかゆ・野菜・果物等と、福島医療生協から特別に希望された「とろみ剤」も届けました(写真)。また、4日には看護師2名が宮城県坂総合病院を拠点に、地域の避難所訪問・被災者訪問活動を行うための医療支援に出発しました。(4月5日付、支援ニュースNo.12 より抜粋)

○医療生協さいたま

福島県から避難され、埼玉協同病院で無事出産された方の様子(4月1日付けNo.31参照)が多くのマスコミに紹介されました。報道を見た組合員さんから物資提供などの申し出が相次いでいます。「家を提供したい」と申し出られた組合員さんがおり、具体的相談をご本人同士でしていただくことになりました！

4月6日、放射線技師1名、臨床検査技師1名、介護福祉士1名が松島医療生協への支援に向いました。(4月4日付、震災対策本部ニュースNo.23 より抜粋)

○医療生協かながわ

おだわら診療所に3名の被災者が受診しています。ある方は千葉県から箱根の親戚のところに来ている方で、禁煙外来が途中なので続けたいとのことでした。別の方は福島県から来た方で、組合員さんの親戚で夜、眠れないと受診しました。避難するのに精一杯で「保険証は持ってこなかった。そんな余裕はなかった」というお話。本当に疲れきった様子でしたので、待合室でお茶とお菓子を出したところ「今まで、いろんな病院にかかったけれど、お茶菓子を出してくれたところはないよ」と大変喜んでいました。(4月5日付、対策本部ニュースNo.27より抜粋)

○東京保健生協



4月5日、鬼子母神診療所前でWHO 4.7世界保健デー“全国一斉生活習慣チェック”とともに、「大震災救援一斉街頭募金」活動呼びかけました。大泉生協病院への配属が決まった看護師2名、言語聴覚士1名、理学療法士2名、作業療法士1名、事務1名ら新入職員8名を含む職員9名と南池袋雑司が谷2丁目支部の矢島光代支部長ら組合員3名が参加。地元の組合員や住民ら10人が血圧測定、体脂肪測定、尿検査などの健康チェックを受けました。募金の呼びかけに小学生らが応えてくれました。

○東京ほくと医療生協



4月5日、赤羽駅西口でWHO 4.7世界保健デー“全国一斉生活習慣チェック”と大震災救援一斉街頭募金を行いました。医師、歯科医師をはじめとする新入職員22名と組合員18名、職員5名の総勢45名で取り組み、100名程度の方に健康チェックと生活習慣チェックを行いました。支援募金に3万円が寄せられました。

○尼崎医療生協

4月4日、みやぎ県南生協に向け入浴介助に必要なタオル、石鹸、肌着等5箱を発送しました。(4月5日付、東日本大震災救援ニュースNo.19より抜粋)

○広島医療生協



4月3日、医師1名、看護師1名、事務1名が坂総合病院にむけ出発しました(写真)。また、4月18日からは小児科医1名、看護師1名、事務1名が支援に向かうことが決定しています。義援金が200万円を超えました。(支援対策ニュースNo.17~19より抜粋)

○倉敷医療生協

4月5日より、医師1名、看護師2名、放射線技師1名、事務1名が坂総合病院にむけ医療支援に出発しました。300万円を超える義援金が集まっています。

(4月5日付、支援ニュースNo.3より抜粋)

○香川医療生協



4月1日、街頭募金に取り組みました(写真)。参加した職員からは「自分も早く募金に参加したかった。自分に今出来ることをする」等の感想が寄せられました。

4月6日より、医師1名、看護師1名、臨床心理士1名、事務1名が坂総合病院へ医療支援に出発しました。(4月6日付、支援ニュースより抜粋)

○大分県医療生協

宮城県入りしている第3次医療支援団の看護師が多賀城文化センターで、避難者をケア。一人ひとりに健康チェックを行いました。また、救急救命室の看護師は1日に10名近い急患に対応。事務1名は地域訪問のリーダーとして宮城郡七ヶ浜町地区で避難せずに残っている方々を1軒1軒訪問。(4月5日支援ニュースNo.7より抜粋)

義援金総額 (4月6日現在)

6670 万 2845 円 (46 生協、個人、事業者)

担当：江本 (at_e@hew.coop)・丸山 (kj_m@hew.coop)

電話：03(4334)1580、FAX：03(4334)1585